

シリア：死亡者 7000 人、負傷者 15 万人——MSF 支援施設の患者数（2015 年）

国境なき医師団（MSF）は、2016 年 2 月 18 日付で、シリア国内で MSF が支援している病院・診療所計 70 施設から得たデータに基づいて民間人の被害について詳述した調査報告書『シリア内戦 2015：国境なき医師団（MSF）支援先施設における死傷者の記録』を発行した。

報告書（英語版）<http://bit.ly/1SBR8xM>

MSF 関連の 70 施設で、2015 年だけでも、紛争による死亡者 7009 人、負傷者 15 万 4647 人と記録されている。こうした被害者の 30%～40%が女性と子どもだ。

MSF は国連安全保障理事会の常任理事国——その中でもシリア内戦への影響力が強いフランス、ロシア、英国、米国——に対し、2015 年 12 月に採択されたシリア和平決議を順守すること、民間人の保護を徹底すること、民間人の居住地での戦闘をやめることを求める。

MSF の支援先施設 63 カ所に 94 回の攻撃——2015 年

国際的な医療・人道援助団体である MSF が保有しているデータは、シリア内戦で民間人とその生活圏が標的となり、無差別攻撃を受けて深刻な被害が出ていることを証明するものだ。

MSF インターナショナル会長のジョアンヌ・リユー医師は「データが示す内容は衝撃です。しかし、MSF のデータですら、膨大な犠牲の一部を反映しているに過ぎません。MSF 関連の施設以外での死傷者数は把握できていないのですから。実情ははるかにひどいでしょう」と話す。

MSF の調べでは、2015 年だけでも、MSF が支援している病院・診療所のうち 63 カ所が合計 94 回の爆撃または砲撃に遭った。12 施設は全壊し、スタッフ 23 人が命を奪われた。2016 年も既に 6 カ所の病院・診療所が被害を受けている。

市民 190 万人以上が包囲下に——2 カ月で餓死 49 人

リユー医師は「国連安保理は、民間人保護という最低限の責任を果たすべきです。民間人と医療施設への攻撃および包囲戦と兵糧攻めを禁じる一連の決議を採択したにもかかわらず、そうした行為が続いています」と指摘する。

首都のダマスカス周辺地域では、少なくとも 70 の町や地区で、合計 145 万人が包囲下にあるとみられる。包囲地域への医療物資の搬入や患者の移送はほとんど認められていない。2015 年は、負傷者 9 万 3162 人が包囲地域内で MSF が支援する医療施設で治療を受けている。

首都近郊のマダヤで発生した飢餓の原因も包囲戦だ。2015 年 12 月と 2016 年 1 月の 2 ヶ月間で 49 人が餓死している。首都圏外でも、ホムス県やデリゾール県などで推計約 50 万人が包囲されている。MSF は包囲地域から重病患者を移送することや、定期的な人道援助を続けることを認めるようにと繰り返し求めている。

複数回の攻撃で全壊した拠点病院

2016 年は既に、MSF が支援している 6 か所を含む 17 か所の保健医療施設が爆撃に遭っている。2 月 15 日にはイドリブ県マアラト・ヌマンで、MSF が支援していた病院が複数回の空爆で全壊。スタッフ 9 人を含む 25 人が命を奪われた。この病院はベッド数 30 床で、機能が整っており、毎月、数千人を診療する地域の拠点病院だった。

リユー医師は「マアラト・ヌマンの病院爆撃は国際人道法のはなはだしい侵害です。このケースでさえも、シリアで起きている医療施設への攻撃の氷山の一角に過ぎません。すべての紛争当事者に声を大にして申し上げましょう。あなた方の“敵”を治療した医療従事者が、すなわちあなた方の“敵”ではないのです」と強調する。

MSF はシリア内戦の関係各国に対し、マアラト・ヌマンの病院爆撃について、国際事実調査委員会 (IHFFC) およびその他の適切な独立組織による第三者的な事実調査を受け入れるように求める。

各国は難民保護の責務を果たせ

シリア北部のアザーズ郡では、直近 2 ヶ月だけで推計 4 万 5000 人がトルコとの国境付近に逃れた。国境地帯には既に、約 5 万 5000 人が避難しており、そこに新たな避難者が加わったことになる。

一方、戦線は避難キャンプからわずか 8km の場所まで急速に接近している。すべての紛争当事者は、避難者の周辺での軍事作戦をやめるべきだ。また、民間人の保護と保健医療施設の保護を徹底すべきだ。

リユー医師は次のように訴える。「避難者はもう逃げる場所がないのです。トルコなど周辺国が多くのシリア人難民を受け入れてきたことを、MSF は高く評価します。同時に、シリア北部のアザーズの状況が悪化しており、周辺国の人道面からの努力が継続されることを願っています。また、周辺だけでなくすべての国が責務を果たし、難民保護にあたることを望みます。特に、シリア内戦の関係諸国は、難民となった人びとの



安全な移動と、尊厳を傷つけない方法での受け入れに向けて、尽力しなければなりません。難民を死に追いやることのないように、国境閉鎖の回避も求められます」

関連情報

MSF が発行した報告書は、シリア北西部、西部、中部に関するもので、医療援助の不足が著しい包囲地域に重点を置いている。同国における MSF の活動は、独立性を保つため、いずれの国の政府の資金も財源としていない。

MSF が支援している病院・診療所とは、支援が 1 年以上続いている施設を指す。支援内容は多岐にわたり、医療物資の供給、最低限の給与の立て替え（対象施設のスタッフを医療業務に専念させるため）、発電機用燃料の供給、損壊した医療施設の再建費用、医療に関する専門的な助言など。70 カ所の施設でこうした包括的な支援を行っている。また、これ以外に約 80 カ所の施設に対し、医療物資の寄贈や専門的な助言を行っている。

MSF はシリアで 2011 年から医療・人道援助を続けているが、対象地域の年間の医療状況を俯瞰できる継続的かつ定期的な医療データの取得は、2015 年ようやく実現した。


以上

本件に関するお問い合わせ先：

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：舘 俊平／趙 潤華

TEL：03-5286-6141／6153 携帯：090-5759-1983 FAX：03-5286-6124

E-mail: press@tokyo.msf.org <http://www.msf.or.jp>

メディア向けツイッターアカウント開設しました。  @MSFJ_Press